

企業誘致の公算は

環境もよく都市圏に近い富士見町を
オフィスの一部としてでも活用してほしい



小林 市子 議員

質問：企業誘致についての公算は。

答弁：富士見の魅力は住み心地のよさ、物価が安いこと、子供が自然の中でたくましく、すばらしい人材として育っていくと、言うことであり、そういうことを望んでいる人たちが都市部にはたくさんいます。また、都市圏との距離が近く、利便性もあります。

オフィス内での仕事は、ネットワークを使えば富士見でも可能ですので、まず、来てもらうことを考えたいと思います。

質問：人口減少問題について、歯止めとなる具体的な施策は。

答弁：人口はこの5年ほど1万5千人で推移しています。近隣市街地から富士見に移り、通勤している方が増えています。環境整備をして、通勤圏のサラリーマンの移住に力を入れる政策を取ることににより、人口減少を早めることは防げると考えています。

質問：第4次総合計画についての方向は。

答弁：農業の将来、産業問題、パノラマ問題等経済に関わる問題は大きく町の足を引っ張っており、十分な対策がとられていません。その点は変革したいと思います。

□その他の質問

*市町村の合併問題について

渡辺別荘跡地の歴史と遺産

議員勉強会No. 4

9月17日 議会では長年富士見高校の獣医として教鞭を振るわれ、渡辺家、詩人尾崎喜八氏とも交流があった清水吉平元町助役に、今町政の焦点になっている「渡辺別荘跡地」について、歴史的経緯、文化的・自然的価値についてお話を伺いました。

●渡辺別荘(分水荘)の経緯

明治37年に富士見駅が開設され、その後、明治40年に渡辺別荘(分水荘)が開荘されました。岡谷市出身の渡辺千秋氏(当時伯爵)の別荘で、上蔦木の旧本陣を解体移築したものです。

千秋氏の孫、昭氏は戦時中家族と共に別荘に疎開し、昭和29年まで富士見で過ごされ、近隣の住民と交流を深めました。その息子さんお二人は富士見小学校、諏訪中学校に通われ、町内にも多くの学友が残っています。

●富士見高校との関り

昭和2年に富士見高校の前身、「諏訪郡南部実家中学校」ができましたが、その開校から、「甲種諏訪農学校」、「諏訪農業高等学校」と進展するまで、渡辺家の多大な協力をいただきました。



尾崎氏が戦後の数年間を過ごした今はなき「分水荘」

●尾崎喜八と富士見・渡辺別荘

詩人尾崎喜八は昭和21年9月、渡辺別荘の一角を借り、富士見に移り住みました。尾崎喜八は「富士見に生きて」の詩が示すように、富士見の自然を師とした方です。富士見高原中学校校歌、富士見高校校歌、富士見青年団団歌の作詞なども手掛け、富士見の文化の進展に大きく貢献し、富士見町の生涯学習のルーツでもあります。

●渡辺別荘跡地の森林

渡辺別荘跡地の森林は、林相としても豊富であり、平地林としては町内他近隣市町村では類のないものです。貴重な財産であるとお話を伺いました。